

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	宇都宮大学
設置者名	国立大学法人宇都宮大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
データサイエンス経営学部	データサイエンス経営学科	夜・通信		0	0	13	13	
地域デザイン科学部	コミュニティデザイン学科	夜・通信		0	0	13	13	
	建築都市デザイン学科	夜・通信		0	0	13	13	
	社会基盤デザイン学科	夜・通信		0	0	13	13	
国際学部	国際学科	夜・通信		0	0	13	13	
共同教育学部	学校教育教員養成課程	夜・通信		0	0	13	13	
教育学部	学校教育教員養成課程	夜・通信		0	0	13	13	
工学部	基盤工学科	夜・通信	13	0	0	13	13	
	機械システム工学科	夜・通信		0	0	13	13	
	電気電子工学科	夜・通信		0	0	13	13	
	応用化学科	夜・通信		0	0	13	13	
	情報工学科	夜・通信		0	0	13	13	
農学部	生物資源科学科	夜・通信		0	0	13	13	
	応用生命化学科	夜・通信		0	0	13	13	
	農業環境工学科	夜・通信		0	0	13	13	
	農業経済学科	夜・通信		0	0	13	13	
	森林科学科	夜・通信		0	0	13	13	
(備考) ○国際学部国際社会学科 平成28年度を以て学生募集停止								

- 国際学部国際文化学科 平成 28 年度を以て学生募集停止
- 教育学部学校教育教員養成課程 令和元年度を以て学生募集停止
- 工学部機械システム工学科 平成 30 年度を以て学生募集停止
- 工学部電気電子工学科 平成 30 年度を以て学生募集停止
- 工学部応用化学科 平成 30 年度を以て学生募集停止
- 工学部情報工学科 平成 30 年度を以て学生募集停止
- データサイエンス経営学部 令和6年4月設置 完成年度を超えていないため一部の学年に学生の在籍なし

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

シラバス検索画面より
 → 実務家による授業回数「授業あり」にチェックを入れ検索
<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/activity/research/syllabus.php>
 全学共通科目による 13 単位は、基盤教育科目のうち実務家による授業回数が 15 回の科目から抽出

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第 2 号の 2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第 2 号の 2-②を用いること。

学校名	宇都宮大学
設置者名	国立大学法人宇都宮大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表
<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/outline/jyuhoukoukai/sosiki-jyuhou.php>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所 理事長	2024. 4. 1 ～ 2025. 3. 31	理事（大学運営全般・危機管理担当）
非常勤	東京工業大学 特任教授/防災学術連携体 代表幹事	2024. 4. 1 ～ 2025. 3. 31	理事（大学運営全般・地域連携担当）
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宇都宮大学
設置者名	国立大学法人宇都宮大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)の作成にあたり、作成上の注意として①教員名②ナンバリング③科目等履修生の受入④連絡先⑤オフィスアワー⑥AL度⑦実務家による授業回数⑧実務経験の内容及び当該授業への実務経験の活かし方⑨地域対応力を要請する科目⑩授業の内容⑪授業の到達目標⑫学修・教育目標との関連⑬前提とする知識⑭関連する科目等⑮授業の具体的な進め方⑯授業計画詳細情報(授業計画・時間外学修・標準学修時間)⑰教科書・参考書・教材等⑱成績評価⑲学修上の助言⑳キーワード㉑SDGsとの関連㉒3C到達度チェック㉓備考の入力方法等を示し、その上で作成した授業計画(シラバス)を本学公式ホームページで公表しています。</p> <p>また、2024年度授業計画(シラバス)の作成・公表時期は次のとおりでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入力開始 2023年11月27日(月) ・入力期限 2023年12月28日(木) ・公開 2024年2月1日(木) 	
授業計画書の公表方法	<p>WEBシラバスで公表</p> <p>https://www.utsunomiya-u.ac.jp/activity/research/syllabus.php</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)に記載の成績評価の欄において、授業科目毎に授業への参加態度、定期試験、レポートの成績評価への割合を明らかにするとともに、本学公式HPへ掲載の成績評価制度(GPT・GPA制度)の導入で、秀・優・良・可等の評語やGPの説明等に基づき、厳格かつ適正な評価及び単位認定を行っています。</p> <p>○単位の認定の方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> → 宇都宮大学における授業科目成績の評価GPT・GPA制度の取扱いに関する要項 http://education.joureikun.jp/utsunomiya_univ/act/frame/frame11000314.htm → 成績評価制度(GPT・GPA制度)について https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/hyouka.pdf 	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPTは、履修登録した科目の5段階評価（秀・優・良・可・不可）を5から0までの点数（GP: Grade Point）に置き換え、それぞれの単位数を掛けて総和をとった値です。GPAはGPTを履修登録単位数の合計で割った平均点です。総和または平均をとる期間により、学期、学年、通算の3種類があります。

成績評価制度における成績の評価基準とそれぞれのGPをまとめて次表に示します。ここで、「不可」もGP=0としてGPAの計算に算入されることになっています。

標語 () は英 字標 記	評価点	GP	判断基準
秀(S)	100～90点	5	目標を十分に達成し、特に優れた成績
優(A)	89～80点	4	目標を十分に達成し、優れた成績
良(B)	79～70点	3	目標を達成し、良好な成績
可(C)	69～60点	2	目標を最低限達成し、合格と認められる最低の成績
不可 (F)	59～0点	0	目標を達成しておらず、合格と認められない成績
合			大学で認めた評価「合格」
不合			大学で認めた評価「不合格」

○G P Aの算定等について

→ 宇都宮大学における授業科目成績の評価G P T・G P A制度の取扱いに関する要項

http://education.joureikun.jp/utsunomiya_univ/act/frame/frame11000314.htm

→ 成績の分布状況の把握

教務委員会において学部別に成績評価割合の平均値および成績評価基準に基づく成績分布状況を共有し、適切な成績評価のための参考資料としています。

→ 成績不振学生に対する学修指導等について

本学では、組織的な学修指導のため、全学共通ガイドラインを定めるとともに学部毎に成績等の基準を定め、指導教員が個々の状況に応じた学修指導を行っています。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

宇都宮大学における GPT・GPA 制度の取扱いに関する要項
http://education.joureikun.jp/utsunomiya_univ/act/frame/frame11000314.htm

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
	<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定の基準（ディプロマポリシー）を定め、本学で提供する教育プログラムがどのような学生を、どのような教育体系により、どのような能力を備えた人材に養成するかを約束した「宇都宮大学の学士課程教育 学生の皆さんへの約束」としてホームページで公表し、学生の皆さんや社会に対し明示しています。また、学部毎に定める卒業に必要な修得単位数を確認し、教授会において学生の卒業認定を行っています。</p>
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>ホームページで公表 ○データサイエンス経営学部データサイエンス経営学科 https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=49 ○地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科 https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=17 ○地域デザイン科学部建築都市デザイン学科 https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=19 ○地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科 https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=21 ○国際学部国際学科 https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=23 ○共同教育学部学校教育教員養成課程 https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=27 ○教育学部学校教育教員養成課程 https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2020e13/html5.html#page=27 ○工学部基盤工学科 https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=29 ○工学部機械システム工学科 https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_10.pdf ○工学部電気電子工学科 https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_11.pdf ○工学部応用化学科 https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_12.pdf ○工学部情報工学科 https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_13.pdf ○農学部生物資源科学科 https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=39 ○農学部応用生命化学科 https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=41 ○農学部農業環境工学科 https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=43 ○農学部農業経済学科 https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=45 ○農学部森林科学科 https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=47</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	宇都宮大学
設置者名	国立大学法人宇都宮大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.utsunomiya-u.ac.jp/disclosure/finance.php
収支計算書又は損益計算書	https://www.utsunomiya-u.ac.jp/disclosure/finance.php
財産目録	
事業報告書	https://www.utsunomiya-u.ac.jp/disclosure/finance.php
監事による監査報告(書)	https://www.utsunomiya-u.ac.jp/disclosure/finance.php

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:宇都宮大学アクションプランに基づく年度計画)
公表方法: https://www.utsunomiya-u.ac.jp/disclosure/duties.php
中長期計画(名称:国立大学法人宇都宮大学中期計画 対象年度:令和4~9年度)
公表方法: https://www.utsunomiya-u.ac.jp/disclosure/duties.php

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.utsunomiya-u.ac.jp/disclosure/daigakuhyoka.php

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.utsunomiya-u.ac.jp/disclosure/daigakuhyoka.php

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 データサイエンス経営学部データサイエンス経営学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=49)</p> <p>(概要) データサイエンス経営学部は、データサイエンスと経営学を総合的に学び、データから価値のある情報を抽出するデータサイエンス力、経営学的視点から課題とその解決策を見つけ出すマネジメント力、データサイエンスと経営学の知識とスキルを、課題解決や意思決定、価値創出に活用できる社会実装力の3つの力を有する次世代人材を育成します。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=49)</p> <p>(概要) 宇都宮大学の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、データサイエンス経営学部データサイエンス経営学科では、「宇大スタンダード」に定める汎用的能力と、以下のような専門分野に関する3つの力を身につけた学生に「学士（経営情報学）」の学位を授与します。</p> <p>(a)データサイエンス力 科学的で根拠に基づく課題発見・解決を行うために、数学、統計学、情報学の知識や機械学習・AI を使いこなし、データから価値のある情報を抽出し分析する力</p> <p>(b)マネジメント力 企業や行政などの課題発見・解決のために、組織における様々なメカニズムを理解し、マネジメント視点から課題とその解決策を見つけ出す力</p> <p>(c)社会実装力 データサイエンスと経営学の知識と技術を、課題解決や意思決定、価値創出に活用することによって社会に実装する力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=49)</p> <p>(概要) 【教育課程編成の方針】</p> <p>①科目の編成 ・幅広い教養を修得するための「基盤教育科目」と、データサイエンス及び経営学の専門性を身に付けるための「専門教育科目」の2種類の授業科目を体系的に編成します。 ・専門教育科目として「数理・データサイエンス科目」、「経営学科目」、「総合・社会実装科目」を配置します。 ・「データサイエンス力」は、専門教育科目のうち「数理・データサイエンス科目」の履修を通じて養成されます。 ・「マネジメント力」は、専門教育科目の「経営学科目」の履修を通じて養成されます。 ・「社会実装力」は、「数理・データサイエンス科目」「経営学科目」により身に付ける知識・技術を基盤として、「総合・社会実装科目」の履修を通じて養成されます。 ・「宇大スタンダード」に定める汎用的能力は、「基盤教育科目」の履修を通じて養成され、「総合・社会実装科目」の履修により更に高められます。</p> <p>②学系選択制の導入 ・データサイエンスと経営学の基礎的素養を修得した上で、さらにいずれかの専門性を高度化するために、本学科のカリキュラムの中に「データサイエンス学系」と「経営学系」の2つの学系を設けます。</p>

・学生は2年次後期からいずれかの学系を選択します。

【教育内容の学修方法】

・「データサイエンス学系」と「経営学系」のいずれの学系においても、データサイエンスと経営学の双方の基礎知識、基礎技術を修得することに加え、各学系においてそれぞれの高度な専門性を深めます。

・「データサイエンス学系」では、数理・データサイエンスに関する知識や技術を学ぶだけでなく、経営学の素養を身に付けて、経営課題や地域社会のニーズに対する理解に基づく経営支援やプログラム・システム開発などを可能とする知識と能力を養成します。

・「経営学系」では、企業経営を中心とした経営学を学ぶだけでなく、データサイエンスの基礎知識を身に付けて、データに基づく地域産業のコンサルティングや経営判断、起業などを可能とする知識と能力を養成します。

・各学系において身に付けた知識や技術を活用した実践的な課題発見・解決の経験を積む機会としてインターンシップや演習科目を配置し、地域産業・地域経済の持続的発展に資する社会実装力を養成します。

【学修成果の評価方法】

学修成果の評価は、授業科目ごとに定める達成目標に応じ、科目の態様に従って、試験、レポート、発表などにより評価します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=49>)

(概要)

1. 求める学生像

- (1) 高等学校の様々な教科・科目の学習を通して、文理の基礎知識をバランスよく身に付けてきた人
- (2) 物事を論理的に考えることができる人
- (3) 多様な人々・組織と協働して、これからの世界や日本、地域社会の創造（創生）に貢献するために、自分の考えを表現し他者に伝えることができる人
- (4) 情報システムを活かした企業経営や起業に意欲がある人
- (5) 企業、組織活動、組織経営について数理的に分析することに関心がある人
- (6) データ分析、プログラミング、情報ネットワーク等に関心がある人

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 一般選抜前期日程では、大学入学共通テスト及び個別学力検査等の結果、並びに出願書類（調査書）を総合して選抜を行います。基礎学力、思考力を中心に評価します。
- (2) 一般選抜後期日程では、大学入学共通テスト及び個別学力検査等（面接）の結果、並びに出願書類（調査書）を総合して選抜を行います。基礎学力、コミュニケーション能力、データサイエンス・経営学に対する興味関心を中心に評価します。
- (3) 総合型選抜では、大学入学共通テスト、論述試験、面接及び出願書類により選考を行います。基礎学力、論理的思考力、データサイエンス・経営学に対する興味関心を中心に評価します。

学部等名 地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=17)</p> <p>(概要) 地域社会の成り立ちや課題を理解するために必要な、幅広い教養を身につけるとともに、地域と連携してさまざまな現場を訪れ、体験しながら学修を深めます。さらに、政治、経済、行政、自然環境、文化、食生活、観光、健康心理、社会教育、NPO、会話分析、組織マネジメントなどの専門的な分野を専攻しながら、これらを応用した地域デザイン能力を養い、21世紀の地域社会の担い手として、行政機関や民間企業、NPO 等で率先して活躍できる人材を育てます。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=17)</p> <p>(概要) コミュニティデザイン学科では、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学修・教育目標を定めています。</p> <p>(a) 人間と社会、多様な地域に関する基礎的素養を身に付ける</p> <p>(b) 地域デザインに関する共通のリテラシーを身に付ける</p> <p>(c) 地域デザインに必要なソーシャルスキルを身に付ける</p> <p>(d) 地域デザインを専門とする職業人としての倫理観を養う</p> <p>(e) 地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける</p> <p>(f) 地域社会の課題を発見するとともに、分析することができる能力を身に付ける</p> <p>(g) 地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力を身に付ける</p> <p>(h) 新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力を身に付ける</p> <p>(i) 地域で主体的・協働的に行動し、活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力を身に付ける</p> <p>基盤教育科目 29 単位以上、専門教育科目 96 単位以上の合計 125 単位以上を修得し、コミュニティデザイン学科が掲げる上記の学修・教育目標を達成した者に卒業を認定します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=17)</p> <p>(概要)</p> <p>【教育課程編成の方針】</p> <p>コミュニティデザイン学科では、公共政策、地方自治、経済、自然、文化、食生活、観光、社会福祉、社会教育、NPOなどの専門的な分野を専攻しながら、これらを応用した地域デザイン能力を養い、21世紀の地域社会の担い手として、地域社会を構成する社会集団や制度等をデザインする人材を育成するために、地域社会の成り立ちや課題を理解するために必要な幅広い教養を身につけるとともに、地域と連携してさまざまな現場を訪れ、体験しながら学修を深めるカリキュラムを編成します。</p> <p>【教育内容の学修方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修効果を高めるために地域との関わりの中で学ぶ機会を創出している他、アクティブ・ラーニングの手法を導入し、教員や学生同士の双方向型授業を実施します。 ・人文・社会・自然基礎科目や、コミュニティデザインに欠かせないコミュニケーション能力などのソーシャルスキルや、社会調査データの解析方法を学修します。 ・地域資源・高齢社会・社会福祉・行政・政治・経済・生涯学習など、地域の課題や主題について幅広い視点から理解できるように、教員や行政担当者などによる授業を行うとともに、現場への訪問・実習も行っていきます。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>学修成果の評価は、授業科目ごとに定める達成目標に応じ、科目の態様に従って、試験、レポート、作品、発表などにより評価します。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=17)</p>
<p>(概要)</p> <p>1. 求める学生像</p> <p>(1) 地域や社会との関わりの中で学び、課題解決に当たる意欲のある人材</p> <p>(2) 地域の成り立ちを理解し、より良いコミュニティの創成を追究するために必要な基礎学力を有する人材</p> <p>(3) 地域の資源・社会システムの視点から、総合的・実践的にまちづくりを学ぶ熱意のある人材</p> <p>2. 入学者選抜の基本方針</p> <p>(1) 高等学校の教育課程を尊重し、基本的な学力と思考力を備えているかどうかを重視します。</p> <p>(2) 地域社会（コミュニティ）をデザインすることに対する熱意と学際的学修へ向けた適性・能力を評価の対象とします。</p> <p>(3) 主体的・協働的な姿勢、論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力なども考慮して評価します。</p>

<p>学部等名 地域デザイン科学部建築都市デザイン学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=19)</p>
<p>(概要)</p> <p>建築都市デザイン学科は、実践的な建築技術を基礎として居住空間をデザインできる人材を育成します。</p> <p>現在、日本の各地域において、急速に進む少子高齢化、地域社会の衰退とそれに伴うコミュニティ機能の低下、自然環境の大きな変化と自然災害の大規模化などを背景に、①少子高齢化社会（人口減少社会）への対応、②環境・エネルギー問題への対応、③防災・減災に基づく安全・安心社会形成への対応の3点が大きな社会的課題となっています。そこで、本学科では、従来の建築レベル、物的環境からの発想に加えて、地域レベル、社会を構成する多主体（住民、行政、企業など）とその関係などの社会環境にも着目し、広く都市・地域の視点から、物的環境と社会環境の対応関係を分析し、地域の実情に即してそれらを統合的にとらえ諸課題を解決する発想力と手法提案力を身につけた人材を育成します。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=19)</p>
<p>(概要)</p> <p>建築都市デザイン学科では、ディプロマポリシーとなる以下を学修・教育目標として定めています。</p> <p>(a) 科学技術全般とデザイン科学に対する共通のリテラシーを身につける</p> <p>(b) 地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身につける</p> <p>(c) 人間と社会・文化・地域に関する教養を身につける</p> <p>(d) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う</p> <p>(e) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身につける</p> <p>(f) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身につける</p> <p>(g) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力を身につける</p> <p>(h) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身につける</p> <p>(i) 工学・地域デザイン科学と芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く</p> <p>この学修・教育目標に沿って、定められた規程分野ごとに単位を修得する必要があります。</p>

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=19>)

(概要)

【教育課程編成の方針】

建築都市デザイン学科は、従来の建築レベル・物的環境からの発想に加えて、地域レベル・社会を構成する多主体(住民・行政・企業など)とその関係などの社会環境にも着目し、広く都市・地域の視点から、物的環境と社会環境の対応関係を分析し、地域の実情に即してそれらを統合的にとらえ諸課題を解決する発想力と手法提案力を身につけるカリキュラムを編成します。

また、建築都市デザイン学科を卒業した者は、各自の選択・専攻の如何によらず、一級建築士の国家試験を受験することができるように、構成されています。

【教育内容の学修方法】

建築都市デザイン学科では、まず数学などの理数系基礎科目、英語や情報処理基礎、そして人文科学系、社会科学系および自然科学系の科目などを履修することで、社会人・技術者としての幅広い教養とリテラシーを身につけ、専門科目履修のための基礎を形成します。これらは主に1～2年次に履修します。

次に建築都市デザイン学科の専門科目は、必修科目と選択科目とから構成されます。必修科目は、建築学全般について基本的事項を学修するためのものであり、定められた全ての科目を履修するように学問上の体系と学修の順序が考慮されています。選択科目は、やや専門化した分野について学修するためのもので、上記のような各専門技術者向きの内容の選択を可能にし、各自の将来の進路に適した知見が修得できるように構成されています。

そのなかで、本学の建築都市デザイン学科では、「卒業設計」と「卒業論文」の両方が必修科目であることが特徴です。修得した幅広い建築に関する知識の集大成として「卒業設計」を行い、また、各自で研究テーマを定め、修得した高度な専門技術を発展させて「卒業論文」としてまとめることによって、カリキュラムを完了することになります。

【学修成果の評価方法】

学修成果の評価は、授業科目ごとに定める達成目標に応じ、科目の態様に従って、試験・レポート・作品・発表などにより評価します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=19>)

(概要)

1. 求める学生像

- (1) 建築と地域デザインの専門技術を学ぶために必要な幅広い基礎学力を有する人
- (2) 人間生活・社会・自然を含む地球環境と建築・地域デザインとの関わりを学ぶ熱意のある人
- (3) 歴史・文化・芸術を活かした建築・地域空間創造を追究する意欲のある人

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 高等学校の教育課程を尊重し、基本的な学力と思考力を備えているかどうかを重視します。
- (2) 建築系分野に対する熱意と理数系分野に対する能力を評価の対象とします。
- (3) 主体的な姿勢、論理的思考力、空間的把握能力、表現力、コミュニケーション能力なども考慮して評価します。

学部等名 地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=21)</p>
<p>(概要) 社会基盤デザイン(Civil Engineering and Regional Design)とは、安全で持続可能な社会基盤・都市機能をデザインする学問領域です。英訳の“Civil Engineering”は、Military Engineeringに対する“市民工学”として、工学の歴史の中では最も古くから存在し、文明社会の礎となる学問体系です。我が国では、中国の故事『築土構木(土を築き、木を構える)』から“土木工学”と呼ばれ、我々の社会生活に深く関わり、市民生活の土台となっています。</p> <p>土木工学の対象分野は幅広く、規模も多様です。現代の安全・快適な生活のためには、電気・水・情報通信網などライフラインと称する基盤設備が不可欠です。また、橋や道路などの交通網の整備、公園や街路樹などの環境、産業・民生の基盤となる港湾やダム、発電所などのエネルギー施設などの整備、斜面安定処理や河川の整備、地盤沈下などの防災対策、土壌汚染・廃棄物などの環境問題解決のための対策、地域・国を挙げた防災・減災マネジメントなど、これらの計画から実行まですべてが土木工学の関係する分野です。</p> <p>また、今後、社会基盤整備だけでなく、地域社会の経済・社会・文化・歴史なども見据え、課題を適切に解決に導いていく手腕が必要です。本学科では、土木工学とその周辺の専門知識を総合し、新たな道筋を切り拓くための社会基盤の「デザイン」能力を学修します。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=21)</p>
<p>(概要) 社会基盤デザイン学科では、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学修・教育目標を定めています。</p> <p>(a) 人間と社会、多様な地域に関する基礎的素養を身につける (b) 科学技術と地域デザインに関する共通のリテラシーを身につける (c) 多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身につける (d) 社会基盤整備や地域デザインに関わる技術者としての倫理観を身につける (e) 自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる (f) 社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる (g) 社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる (h) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる (i) 社会基盤整備および施策を適切な形で着実にやり遂げることができる</p> <p>基盤教育科目 29 単位以上、専門教育科目 96 単位以上の合計 125 単位以上を修得し、社会基盤デザイン学科が掲げる上記の学修・教育目標を達成した者に卒業を認定します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=21)</p>
<p>(概要) 【教育課程編成の方針】 社会基盤デザイン学科では、幅広い知識を持って様々な分野で地域社会と協働でき、グローバル社会においても活躍できる土木技術者を育成するために、土木工学とその周辺の専門知識を総合し、新たな道筋を切り開くための社会基盤の「デザイン」能力を学修するプログラムを編成します。</p> <p>【教育内容の学修方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1～2 年次：数学・物理などの自然科学の基礎、人文・社会科学等、地域デザインの基礎を学び、次いで社会基盤整備の基礎となる構造・材料・水工・地盤・計画等の土木工学の各分野の基礎知識・理論を学修します。 ・ 3 年次：上記専門基礎を実際の問題に適用し解決する方法について、演習・実験等の授業科目を通じて体得します。また各分野の、より発展した知識・理論を学修します。併せて総合的な

<p>マネジメント,最前線の現場でのインターンシップなど,土木技術者に必須の幅広い知識,経験が得られる科目を準備されています。</p> <p>・4年次: 修得した知識・経験の集大成として, 総合的に実践する場となる卒業研究に着手し, 問題発見・分析方法や解決策の提案・計画の立案および実行・これら結果の取りまとめによる報告書・論文の執筆および発表に取り組み, 社会基盤整備に携わる専門技術者がなすべき一連の仕事を完結できるようにします。</p> <p>【学修成果の評価方法】 学修成果の評価は, 授業科目ごとに定める達成目標に応じ, 科目の態様に従って, 試験, レポート, 作品, 発表などにより評価します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法: https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=21)</p>
<p>(概要)</p> <p>1. 求める学生像</p> <p>(1) 国内・海外の様々な地域の課題解決に関心があり, グローカルに活躍したい人</p> <p>(2) 社会基盤と地域デザインの技術修得に熱意があり, そのための幅広い基礎学力を有する人</p> <p>(3) 社会全体の利益のために奉仕できる責任感のある人</p> <p>2. 入学者選抜の基本方針</p> <p>(1) 高等学校の教育課程を尊重し, 基本的な学力と思考力を備えているかどうかを重視します。</p> <p>(2) 地域における社会基盤デザインに対する熱意と問題解決に対する能力を評価の対象とします。</p> <p>(3) 主体的な姿勢, 論理的思考力, 表現力, コミュニケーション能力なども考慮して評価します。</p>

<p>学部等名 国際学部国際学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法: https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=23)</p>
<p>(概要)</p> <p>国際学科では, グローバル化する地域の現状と課題を多文化共生の視点から読み解き, 問題構造をふまえて社会を構想していく力を養うとともに, コミュニケーション能力や行動力・協調性を兼ね備えた, グローバルな実践力に富む人材の育成をめざして, 教育プログラムを編成しています。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=23)</p>
<p>(概要)</p> <p>宇都宮大学の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)のもと, 国際学部国際学科では, 「宇大スタンダード」に定める汎用的能力と, 以下のような専門分野に関する知識・技能を獲得した学生に「学士(国際学)」の学位を授与します。</p> <p>(1) 世界の様々な国や地域におけるグローバル化と多文化共生に関する現状と課題についての知識を有し, それらの問題構造を理解することができる。</p> <p>(2) 多文化共生社会における諸課題について, その問題構造を踏まえつつ, 異なる立場の人々への想像力や共感を土台として, 学際的・多角的・専門的に考察し, 価値選択や目標設定を行うことができる。</p> <p>(3) 世界の様々な国や地域で活躍する基盤としての複数言語運用能力とコミュニケーション能力を備える。さらに自らの設定した課題に関する資料・データ・文献を収集し, 適切な方法を用いて比較考察的・批判的にこれら进行分析し, 論理的な考察を加えて研究成果を文章化し, また口頭で発表して生産的に議論し, 課題解決のために実践的に行動することができる。</p> <p>(4) 異なる文化や社会のあり方を尊重しつつ, 21世紀型グローバル人材(グローバル人材)としてグローバル化する地域と世界の問題解決に積極的に関わることができる。</p>

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=23>)

(概要)

【教育課程編成の方針】

国際学科では、グローバル化する地域の現状と課題を多文化共生の視点から読み解き、問題構造をふまえて社会を構想していく力を養うとともに、コミュニケーション能力や行動力・協調性を兼ね備えた、グローバルな実践力に富む人材の育成をめざして、教育プログラムを編成しています。

【教育内容の学修方法】

以下の1～6に主眼をおき、人文社会諸科学を融合させた体系的なカリキュラムを編成しています。専門導入、多文化共生コア、多文化共生基礎からグローバル実践力基礎、専門外国語、グローバル専門、国際キャリア教育、専門演習・実験実習の各科目群をへて、卒業研究準備演習、卒業研究へと段階的に学修を深めていきます。

1. 大学での学修に必要な基礎的な能力・技術を身につけるとともに、関連する異分野に関する基礎的な知識・理解を深める。
2. 多文化共生に関して、専門教育の基礎となる主要な知識と論点を理解する力を身につける。
3. 学術的かつ実用的な英語運用能力に加え、英語以外の外国語を学ぶ機会を提供し、多様な地域や文化を現地の言語で理解し、効果的にコミュニケーションを行うための基礎力を身につける。
4. 多文化共生を目指す上で直面する諸課題を、構造的に把握する能力を身につける。
5. 多文化共生をめぐる諸問題を、多様な地域に関連づけて理解する力とともに、グローバルな枠組みを用いて、その問題構造を理解・分析する力を身につける。
6. 多文化共生に関して自らの設定した課題に関する資料・データ・文献を収集し、適切な方法を用いて比較考察的・批判的にこれら进行分析し、論理的な考察を加えた研究成果を文章化し、また口頭で発表して生産的に議論するとともに、課題解決のために実践的に行動する力を身につける。

【学修成果の評価方法】

学修成果の評価は、授業科目ごとに定める達成目標に応じ、科目の態様に従って、試験、レポート、作品、発表などにより評価します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=23>)

1. 求める学生像（入学時に必要な能力や適性等）

- ① 高等学校教育課程の総合的学力を基礎とした広く基本的な知識を持ち、外国語の運用能力と、論理的な作文能力を備えている人
- ② 多文化共生社会に関する問題について主体的に探求し、学修意欲に優れ、多様な現象について論理的に考え、思考と感性を表現することに適性を持っている人
- ③ 学修経験や国籍に関係なく、国際的な問題に高い意識を持ち、それらを論理的に論じることのできる能力を持っている人
- ④ 多様な外国語や情報収集・分析・発信の方法を学び、多様な地域や文化を背景とする人々とコミュニケーションをとりたいと思っている人
- ⑤ 多様な地域・文化を背景とする人々の存在に目を向け、共に学びあいながら、共に生きていく社会について考えたいと思っている人
- ⑥ 世界の様々な国と地域に関心を持ち、グローバル化する地域と世界の多文化共生のために自分の力を活かしたいと望んでいる人

2. 入学者選抜の基本方針

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストと個別学力検査等の結果、並びに出願書類を統合して選抜を行います。大学入学共通テストでは、広く基本的な知識を得ているかを調べ、個別学力検査等では、国際的な社会文化事業について論じる小論文と、一定の運用能力をはかる英語試験を課し、論理的

な作文能力があるか、外国語運用能力の基礎があるかをはかります。また、知識や思考力等に偏ることなく、主体性等を含めた学力の3要素の学びに取り組んできたことを確認するために出願書類（調査書）を使用します。

・学校推薦型選抜 I

出願書類（調査書、自己推薦書等）と面接を総合して選抜を行います。高等学校における学業成績等と、本学科で学ぶための適性や意欲、コミュニケーション能力、自分の考えを自分の言葉で語ることのできる表現力をみることに主眼をおきます。

・帰国生選抜

出願書類（成績証明書等）、小論文、英語外部試験のスコア、そして面接を総合して選抜を行います。小論文では与えられた課題文の趣旨を的確に理解する能力と、自分の知識を活かして独自の考えをまとめる能力が求められます。面接では本学科で学ぶための適性と学修意欲をみることに主眼をおきます。

・社会人選抜

出願書類（志望理由書等）、小論文、英語外務試験のスコア、そして面接を総合して選抜を行います。総合的な問題把握能力、国際社会や異なる文化を理解するための一般的な知識、総合的な思考力、構成・表現力を評価するための小論文、さらに国際的な社会文化事象に対する関心、学修意欲、知識、問題把握能力を評価するために面接を課し、本学科で学ぶための基礎学力があるかをはかります。

・外国人生徒選抜

出願書類（志望理由書等）と小論文、英語外務試験のスコア、そして面接を総合して選抜を行います。小論文では与えられた課題文の趣旨を的確に理解する能力と自分の考えを論理的にまとめる記述力をみます。面接では本学科で学ぶための適性と学修意欲をみることに主眼をおきます。

・私費外国人留学生選抜

出願書類（成績証明書等）、日本留学試験の成績、英語外部検定試験のスコア、学力検査を総合して選抜を行います。日本留学試験では大学で学ぶための基礎学力を重視し、「日本語」「総合科目」「数学（コース1）」を評価対象とします。学力検査では「事前提出の小論文」、「オンラインによる口頭試験および面接」を行い、基礎学力をはかるとともに、本学科で学ぶ目的および適性をみることに主眼をおきます。

<p>学部等名 共同教育学部学校教育教員養成課程</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=27)</p>
<p>(概要) 学校教育教員養成課程は、各種教育職員免許状が取得できるように、教育活動の基盤となる教育学や教育心理学、または障害のある児童生徒の発達と教育について専門的に学修し研究する【教育人間科学系】、小学校・中学校の教科の一つについて教科指導の基盤となる学問・技能を深く学修し研究する【人文社会系】(国語, 社会, 英語), 【自然科学系】(数学, 理科, 技術), 【芸術・生活・健康系】(音楽, 美術, 保健体育, 家政)の4つの系より構成されており、実践的指導力のある小・中・高等学校及び特別支援学校の教員を養成します。また、幼児教育を担う幼稚園教員の養成も行っています。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=27)</p>
<p>(概要) 宇都宮大学の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、共同教育学部では、「宇大スタンダード」に定める汎用的能力と、以下のような専門分野に関する知識・技能を獲得した学生に「学士(教育学)」の学位を授与します。 (a) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (b) 子ども理解や学習集団形成のための必要な知識を修得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個に応じた指導ができる。 (c) 教科及び教育課程に関する知識・技能をもち、子どもの実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (d) 現代社会における教育に関する様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探求心を持ってその解決に取り組むことができる。 (e) 他者を尊重し、多様なステークホルダーと協働して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=27)</p>
<p>(概要) 【教育課程編成の方針】 1. 幅広い教養と行動的知性を身につけさせるために、初期導入科目、基盤教養科目、リテラシー科目、リベラルアーツ科目、高度教養科目(4年次)を開設します。 2. 教師としての基礎的素養と専門性を身につけさせるために、以下の専門科目を開設します。 【教育基礎科目】 教育の理念・歴史・思想、教職の意義、教育課程、子どもの発達や学習の過程、教育の制度など、教育の基礎理論に関する内容について学ばせる。 【教育展開科目】 所属分野の専門科目の内容及び指導法等に関して深い学識を身につけさせる。 【小学校教科及び指導法】 小学校における各教科の内容及び指導法に関して深い学識を身につけさせる。 【教育実践科目・総合教職科目】 小学校及び中学校や特別支援学校における教育実習を通して実践的指導力を養うと共に、教育現場に求められる協働して課題解決に取り組む姿勢を身につけさせる。</p>

【forefront科目】

学校教育における現代的ニーズへの見識と方法及び技術について学ばせる。

3. 教職への使命感・責任感・教育的愛情、社会性や対人関係能力、子ども理解や学級経営等、教科内容等の指

導力にかかわる資質・能力を確たるものにさせるために、「教職実践演習」を開設します。

4. 教養と専門的知識を総合し、主体的に課題解決に取り組むことができる豊かな思考力を身につけさせるために、「卒業研究」を開設します。

【教育内容の学修方法】

・講義科目では、アクティブラーニングを適宜組み込んだ対話型の授業を通じ、教育学全般及び各専門分野に関する幅広い知識を得るとともに、資料を収集・分析・考察し、その結果を的確かつ論理的に構成・表現する能力を身につけます。

・演習科目では、グループワークやフィールドワークなどを通じて学修を行うとともに、各人が口頭発表を行うことで、主体的に課題探求を進めるための専門的知識や実践力、ならびに修得した知識を効果的に活用する能力を身につけます。

・実験・実習・実技科目では、各専門分野に関する知識や技能を基礎とした協働的な学修を通して、実践的能力や指導力を身につけます。

【学修成果の評価方法】

・講義科目については、筆記試験、レポート、授業に対する取り組み状況等により、学修目標に即して多面的・包括的な方法で到達度を判定します。

・演習・実験・実習及び実技科目については、筆記試験、レポート、授業に対する取り組み状況、発表内容、実技成果等により、学修目標に即して多面的・包括的な方法で到達度を判定します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=27>)

(概要)

1. 求める学生像

- (1) 教職を目指す明確な意思と情熱を有し、子どもの成長に関わることに喜びを感じられる人
- (2) 「学ぶ」「教える」「育てる」「発達する」という行為・現象について関心があり、これらのことについて学習意欲のある人
- (3) ものごとを複数の視点から考察し、自ら判断することができる人
- (4) 自己の考えを的確に表現し他者に伝えることができ、他者が表現する考えを受けとることができる人
- (5) 様々な活動に主体的に取り組むことができると共に、他者と協働することができる人
- (6) 高等学校における履修内容を理解し、教職をめざすために必要な基礎学力を身につけている人

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 高等学校までの教育課程を尊重し、広範な基礎学力と思考力を備えている人を評価します。
- (2) 一般選抜においては、教育人間科学系、人文社会系、自然科学系、芸術・生活・健康系の4つの系毎に選抜を行い、それぞれの系で学ぶにふさわしい人を選抜します。
- (3) 学校推薦型選抜Ⅰ（一般推薦（A））においては、学校教員を目指して意欲的に勉学に励む人で、それぞれの学校種・教科の教育方法を学ぶにふさわしい個性・能力を持つ人を選抜します。
- (4) 学校推薦型選抜Ⅰ（一般推薦（B））においては、将来、栃木県の小学校教員として活躍することに強い希望と意志を持ち、小学校教員としての適性を有する人を選抜します。

<p>学部等名 教育学部学校教育教員養成課程</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2020e13/html5.html#page=27)</p>
<p>(概要) 学校教育教員養成課程は、各種教育職員免許状が取得できるように、教育活動の基盤となる教育学・教育心理学を中心に学修し研究する[学校教育コース]、小学校・中学校の教科の一つについて教科指導の基盤となる学問・技能を深く学修し研究する[教科教育コース]、そして、障害のある児童生徒の発達と教育について専門的に学修し研究する[特別支援教育コース]の3つのコースより構成されており、実践的指導力のある小・中・高等学校及び特別支援学校の教員を養成します。また、幼児教育を担う幼稚園教員や子育て支援を担う保育士の養成も行っています。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2020e13/html5.html#page=27)</p>
<p>(概要) 教育学部では、本課程において以下の学修・教育目標に掲げた能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与します。修了の認定は、所定の単位修得に加え、最終年次の「教職実践演習」(教職実践総合科目)及び「卒業研究」(専攻専門科目)で行います。</p> <p>(a) 質の高い英語力の基礎や心身の健康の重要性の理解等、現代社会での活躍に必要なリテラシーや幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができています。</p> <p>(b) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を修得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。</p> <p>(c) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を修得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。</p> <p>(d) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。</p> <p>(e) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。</p> <p>(f) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2020e13/html5.html#page=27)</p>
<p>(概要) 学修・教育目標を達成するために、カリキュラムは以下の3つの科目群で構成されています。具体的には、次ページのカリキュラムツリーに示すような授業科目が編成されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育基礎科目群：教育の基礎理論を中心に、教員としての資質を向上させるための科目(教育基礎科目)や小学校教科の指導内容や教育方法論に関する科目(小学校教科・教育法)で構成されています。 2. 教育展開科目群：教師に必要な専門的力量を身につけるための科目群で、中学校の指導内容に関する基礎力及び教育法について学ぶ科目(中学校教科・教育法)、そこで培った力量に幅を持たせ、教師としての資質をより向上させるための科目(選択教職科目)、得意分野の創成を図るための科目(専攻専門科目)などで構成されています。 3. 教育実践科目群：教師としての基礎的な技術や心構えなど実践力を修得するための教育実践(教育実習)と、教職についての学びの道標呈示や、教職課程で身につけた教師に必要な実践的力量を確認し、評価・改善するための科目(教職実践総合科目)で構成されています。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2020e13/html5.html#page=27)</p>

<p>(概要)</p> <p>1. 求める学生像</p> <p>(1) 高等学校における履修内容を理解し、その知識や実技能力を身につけている人</p> <p>(2) ものごとを複数の視点から考察し、自ら判断することができる人</p> <p>(3) 考えや気持ちを的確に表現することができる人</p> <p>(4) 「学ぶ」「教える」「育てる」「発達する」という行為・現象について関心があり、将来学校教員として活躍する強い意志を持つ人</p> <p>(5) 様々な活動に主体的に取り組めるとともに、共感性や思いやりの心をもって行動できる人</p> <p>2. 入学者選抜の基本方針</p> <p>(1) 高等学校までの教育課程を尊重し、広範な基礎学力と思考力を備えている人を評価します。</p> <p>(2) 一般入試においては、学校教育・特別支援教育系、教科文系、教科理系、教科実技系の4つの系毎に選抜を行い、それぞれの系で学ぶにふさわしい人を選抜します。</p> <p>(3) 推薦入試 I(A)においては、学校教員を目指して意欲的に勉学に励む人で、それぞれの学校種・教科の教育方法を学ぶにふさわしい個性・能力を持つ人を選抜します。</p> <p>(4) 推薦入試 I(B)においては、将来、栃木県の小学校教員として活躍することに強い希望と意志を持ち、小学校教員としての適性を有する人を選抜します。</p>
--

<p>学部等名 工学部基盤工学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=29)</p>
<p>(概要)</p> <p>基盤工学科では、工学分野における多様な分野の知識や技術を有機的に統合して、社会における課題解決の場面に応用できる専門職業人の育成を目指しています。1年次は「基礎教育チーム」となっており、数学、物理、化学、光、プログラミング、生命、感性など、現代の問題解決に必要な基礎知識を幅広く学びます。2年次以降は「専門教育チーム」となっており、物質環境化学コース、機械システム工学コース、情報電子オプティクスコースのいずれかに分属し、専門性を深めていきます。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=29)</p>
<p>(概要)</p> <p>宇都宮大学の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、工学部基盤工学科では、「宇都宮大スタンダード」に定める汎用的能力と、以下のような専門分野に関する知識・技能を獲得した学生に「学士（工学）」の学位を授与します。</p> <p>1. 工学の基礎能力に加え、コース毎に定めた下記の「専門分野における知識・技術」に基づくデザイン力を身につけ、問題発見・問題解決に向けて活用できる。</p> <p> 応用化学コース：材料開発や環境保全等に活用・応用できる化学および関連分野に関する知識・技術及び思考法</p> <p> 機械システム工学コース：機械の設計・生産・知能化に関する知識・技術及び思考法</p> <p> 情報電子オプティクスコース：情報科学・電気電子・光工学分野に関する知識・技術及び思考法</p> <p>2. 工学的な幅広い視野と専門的な知識を基に、イノベーションの創出や持続的発展に貢献することができる。</p> <p>3. 人々および物事を多面的に理解し行動するための教養を備え、倫理観、キャリア観を持って技術者としての責任を果たすことができる。</p> <p>4. 技術者・研究者として必要なコミュニケーション能力を備え、自らの考えを発表し、他者と討論することができる。さらに、専門分野や地域・国の枠を超えて、社会に貢献すべく他者と協働・協力することができる。</p> <p>5. 工学知識の学修・技術の修得を、主体的・継続的に深めることができる。</p>

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=29>)

(概要)

【教育課程編成の方針】

1. 幅広い教養と行動的知性を身につけるために、初期導入科目、リテラシー科目、基盤教養科目、リベラルアーツ科目、高度教養科目を開設する。
2. 工学技術者・研究者として必須の工学基礎能力を身につけるため、工学基礎教育（数学、物理、化学）、およびデータ科学教育（プログラミングなど）などの科目群を主に1～2年次に配置する。
3. 広い工学的視座を養うため、各コース入門科目群、“ものづくり”の実践を行う科目、人の心/身体と工学との結びつきを理解する科目群、工学の様々な分野で応用されている光学に関する科目群、および分野横断型科目群を配置する。
4. 2年次以降、応用化学コース、機械システム工学コース、情報電子オプティクスコースに分かれ、各コースの専門基礎知識及び専門応用知識を修得するためのコース専門科目群を配置する。
5. 各コースの専門分野に関わる基礎知識を基に、実験的検討からの考察と結果の整理を通じて問題解決策を提案するデザイン力を養い、「生み出す力」を育むことを目的として、実験・実習科目群を配置する。
6. 工学専門知識の学修を、主体的・継続的に行う能力を養うため、アクティブラーニングを取り入れた教育を全学年に亘って実施する。
7. 工学と社会との接点を正しく捉え、考え、行動する力を養うことを目的として、工学倫理教育を実施する。
8. 問題発見、研究課題の計画とその遂行、結果考察および成果発表と議論の一連のプロセスを通じ、技術者として必要な総合的能力を実践的に身につけることを目的として、4年次に卒業研究を実施する。

【教育内容の学修方法】

- ・ 講義科目では、アクティブラーニングやブレンディッドラーニングを適宜組み込んだ双方向型の授業を通じ、工学全般および所属コースの専門分野に関する幅広い知識を得るとともに、自力で資料を収集・分析・考察し、その結果を論理的に構成・表現する能力を身につけます。
- ・ 演習科目では、講義科目で得た知識をベースに、関連する基本・応用問題の求解を反復し、継続して学修する能力、修得した知識を効果的に活用する能力を身につけます。
- ・ 実験科目では、講義科目で得た専門知識に対応する現象を観察・観測する実験を行い、その手法の妥当性の検証や実験結果の分析・考察を行い、その結果を技術報告書としてまとめる能力を身につけます。グループ単位で取り組む実験課題も用意されており、コミュニケーション能力など、協働作業に欠かせないスキルも身につけます。
- ・ 実習科目では、作図やプログラミング、製造機器の取り扱いなどを各自体験し、関連する課題などに取り組んで、工学技術者にとって必要な基礎技能を身につけます。

【学修成果の評価方法】

- ・ 講義科目については、筆記試験、レポートなどにより、学修目標に即して多面的、包括的な方法で到達度を判定します。
- ・ 演習・実験・実習科目については、筆記試験・実技試験・レポートなどにより、学修目標に即して多面的、包括的な方法で到達度を判定します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=29>)

(概要)

1. 求める学生像
 - (1) 科学的、理論的思考ができる人
 - (2) 工学の専門分野に興味と関心を持ち、学ぶ意欲と行動力をもつ人
 - (3) さまざまな人々と協働して学ぶ姿勢をもつ人
 - (4) 工学の専門分野を学ぶ上での基礎となる高校までの科目を十分理解している人

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 高等学校の教育課程を尊重し、基本的な学力と思考力を備えているかを重視します。
- (2) 専門分野の学修に求められる熱意と能力を評価します。
- (3) 主体的な姿勢、学修意欲、判断力、表現力及びコミュニケーション能力なども考慮します。

学部等名 工学部機械システム工学科

教育研究上の目的

(公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_10.pdf)

(概要)

生体を模した知能ロボット、電子制御された自動車、航空機など、現代の機械仕掛けは、旧来の機械部品だけでは構成できません。神経に相当する電子部品や、脳に相当するコンピュータ・プログラムなども、同時に構成していく必要があります。こうした複合化する現代の機械システムを、分野の壁を越えて適切に創造しうる人材の育成をします。本学科では、伝統的なものづくり教育に加えて、解が1つに定まらない問題を扱う総合デザイン教育と、分野の壁を超えた横断的な専門教育を実施します。これにより、解が定まらない未知の問題に挑戦でき、機械以外の専門分野にも的確に反応し、のみならず、そうして得られた発明を現実のモノとして製作できる技術者、研究者を育成します。その他、Formula-SAEなどの国際プロジェクトへ参加する学生を、積極的に支援しています。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_10.pdf)

(概要)

所定の単位を修め、以下の学修・教育目標に到達した者に学位を授与します。学生は、学期ごとに学修状況点検・確認表を作成し、各目標の達成度を確認することができます。

現代社会を生きぬく「人」としての能力

- A. 教養に基づく思考力と倫理感の醸成とキャリア観の育成
- B. 論理的な記述力、口頭発表力及びコミュニケーション能力の育成
- C. 自主的学修能力及び継続的な学修意欲の向上

人類の未来に資する「技術者」としての能力

- D. 機械技術者としての基礎学力の修得とその応用能力の育成
- E. 問題発見能力、問題解決能力、創造力、デザイン能力の涵養とものづくりの実践

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_10.pdf)

(概要)

1年次生に対しては「新入生セミナー」を開講し、セミナー形式の少人数グループで実際に初歩的な実験に従事すること等を通して、以後の学修に対する動機付けを行います。同時に、自然環境や世界の文化について理解し、柔軟な発想に基づく創造力や多面的に思考できる能力を身につけるために、教養科目で、人文、社会、科学、語学など幅広い教養を養います。

学科専門科目のカリキュラムは、機械システム工学の主要分野に関する知識を修得し、基礎から応用に学修を進められるように科目の開講時期が設定されています。実験、実習、設計製図、PBL (Problem-Based Learning) 科目においては、学生の創造性・独創性を自主的に発揮させるように課題設定がなされています。4年次生の「機械システム工学演習」では、教員の集団指導によって技術論文作成技術、口頭発表技術の質および効率の向上、さらに研究者倫理意識の向上を目指します。さらにそれらの集大成として卒業研究が位置づけられており、学生は修得した広範な教養と専門知識を基礎として、研究テーマにしたがって、担当教員の指導の下に研究計画の立案と実施を行い、創造力を発揮することが求められています。専門教育科目の一部では、企業人による講義、演習ならびに工場見学が組み込まれており、専門知識の応用の現場に触れたり、見学するとともに、産業界における技術課題、技術に対する社会的要請を実際に目にする機会が用意されています。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_10.pdf)</p> <p>(概要)</p> <p>1. 求める学生像</p> <p>(1) 数学・物理など高等学校での基礎学力を十分に修得し、論理的思考の好きな人 (2) ものづくりとそれに関連する科学技術に興味をもち、未知の分野への挑戦に意欲的な人 (3) 機械システム工学に関わるトピックスに関心があり、関連分野での活躍を夢見ている人</p> <p>2. 入学者選抜の基本方針</p> <p>(1) 高等学校の教育課程を尊重し、基本的な学力と思考力を備えているかどうかを重視します。 (2) 機械系、理数系分野に対する熱意と能力を評価します。 (3) 適性として、主体的な姿勢、学修意欲、ものづくりに対する熱意なども考慮して評価します。</p>
<p>学部等名 工学部電気電子工学科</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_11.pdf)</p> <p>(概要)</p> <p>電気電子工学は、電気エネルギーの発生やその変換・制御技術、半導体デバイスや光デバイス技術、磁性体や超伝導体を含めた材料技術、携帯電話に代表される無線通信技術、光ファイバ等を利用する光通信技術、これらにも関連した信号処理・情報処理技術、ロボットやエンジン等の制御技術などの現代を支える基幹技術を対象とした技術・学問分野です。高度に技術化した現代社会において、電気電子工学の基盤技術・学問分野としての地位は揺るぎないものがあり、今後益々発展していくことも必然です。</p> <p>本学科のカリキュラムは電気電子工学の基礎を着実に修得させることを第一にした構成であり、卒業後、それをベースに社会の幅広い分野で活躍できる人材の育成を目指しています。さらに、自ら問題を発見・解決できる自立した技術者・研究者を育成することも本学科の使命であると考えています。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_11.pdf)</p> <p>(概要)</p> <p>次の学修・教育目標に掲げた能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与します。</p> <p>[学修・教育目標]</p> <p>(A) 専門分野の諸問題に対して倫理的に判断する能力を身につける。 (B) 物事を相手に分かりやすく、かつ正確に説明するためのプレゼンテーション能力を身につける。相手の考え・立場を理解し、自分の意見を的確に伝えるためのディスカッション能力を身につける。 (C) 異文化・習慣を理解し、社会的・国際的・地球的視点から多面的に物事を理解する能力を身につける。 (D) 互いの意見を尊重し共通の目標達成のために、作業分担、協力を積極的に進める能力を身につける。 (E) 数学・物理・情報技術等の基礎知識および電気磁気学・電気回路をはじめとする専門知識を身につける。 (F) 人文社会・自然科学・専門知識を土台として、継続的に自己啓発に取り組む能力を身につける。 (G) 目的に応じて実験等を計画し、適切に実行することができる。収集した実験結果から、定性的・定量的な結論を導き出す能力を身につける。適切な図表と文章表現により実験報告書等を作成する能力を身につける。 (H) 問題を自ら発見し、その問題を解くための能力を身につける。問題に直面したときに、与えられた条件下で有効な手段方法を見出し、適切に実行して解決する能力を身につける。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_11.pdf)</p> <p>(概要) 本学科では、必修科目および所定の選択必修科目を履修することで、全ての学修・教育目標(A)～(H)が達成されるようにカリキュラムが設計されています。各学修・教育目標と講義科目との対応については以下の通りです。</p> <p>(A)「技術者倫理」：「情報処理基礎」および「工学倫理」 (B)「コミュニケーション能力」：英語，創成工学実践，卒業研究 (C)「社会的・国際的・地球的視点」：人文・社会，英語，スポーツと健康，情報処理基礎，新入生セミナー，とちぎ終章学総論， (D)「共同作業」：スポーツと健康，物理学実験，創成工学実践，電気電子工学実験Ⅰ及びⅡ，電気電子工学実験Ⅲ (E)「基礎・専門知識の修得」：情報処理基礎，線形代数及演習Ⅰ，微分積分学及演習ⅠおよびⅡ，力学，波動・熱力学，物理学実験，学科専門選択科目A群および学科専門選択科目B群の専門科目 (F)「自主的・継続的学修能力」：線形代数及演習Ⅰ，微分積分学及演習ⅠおよびⅡ，電気電子数学及演習，電気回路演習A～C，電気磁気学演習A～C，とちぎ終章学総論，卒業研究 (G)「実験等の計画・遂行能力」：物理学実験，創成工学実践，電気電子工学実験A～C，卒業研究 (H)「問題発見・解決能力，自己判断能力」：創成工学実践，とちぎ終章学総論，卒業研究</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_11.pdf)</p> <p>(概要) 1. 求める学生像 (1)電気電子工学を学んでいくための基礎となる科目を高等学校等において修得している人 (2)専門書や原著論文で学ぶには外国語，特に英語の語学力が必須であり，その修得に意欲を持つ人 (3)電気電子工学やその関連分野における専門知識を学修していく意志のある人 2. 入学者選抜の基本方針 (1)高等学校の教育課程を尊重し，基本的な学力と思考力を備えているかどうかを重視します。 (2)電気電子系，理数系分野に対する熱意と能力も評価の対象とします。 (3)主体的な姿勢，論理的思考力，表現力，コミュニケーション能力等も考慮して評価します。</p>

<p>学部等名 工学部応用化学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_12.pdf)</p> <p>(概要) 応用化学科では、優れた新素材の開発やエネルギー・環境問題の解決を始めとして、物質が関係するあらゆる問題に化学の「知恵」をもって取り組むことができる人を育てており、次のような特徴を持っています。</p> <p>基礎学力を重視：1年生から3年生までの間に化学の基礎を身につけられるよう、幅広い分野にわたって授業・演習・実験のカリキュラムを組んでいます。特に、無機化学，有機化学，物理化学，分析化学，化学工学の基礎科目の講義は演習と組み合わせられており，基礎概念と思考力・計算力を無理なく身につけられるよう配慮されています。</p> <p>環境化学のスペシャリスト養成：大気，水質，微生物に関する専門科目があり，公害防止管理者等の資格取得に役立ちます。燃料電池や水浄化技術，生分解性高分子，バイオマスの研究も行っています。</p> <p>多彩で先端的な研究：産業応用が間近な実用的研究から，ナノレベル・原子レベルのアカデミックな研究まで。光触媒や電子素子から，生物や医療に関する分野まで。</p>

<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_12.pdf)</p>
<p>(概要) 応用化学科では以下の学修・教育目標に掲げた能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与します。修了の認定は、所定の単位修得で行います。 (A) 科学技術を多面的にとらえるための幅広い教養と人間性を持ち、国際的に通用する人材としての基礎的知識を身につける。 (B) 化学の素養がある技術者として必要な基礎的能力、およびそれを応用できる能力を身につける。 (C) 化学技術者としての専門知識、およびそれを材料開発や環境保全技術に活用できる能力を身につける。 (D) 自らの考えをまとめ、発表・議論し、実行できる能力を身につける。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_12.pdf)</p>
<p>(概要) 1年次. 英語、情報処理基礎などに加え、数学、物理学など理数系基礎科目を履修し大学で学ぶための基礎および工学基礎知識を修得します。更に、無機化学、物理化学、分析化学、有機化学の基礎を学び、応用化学専門分野の基礎を身につけます。また、人文科学系、社会科学系、自然科学系を選択履修することで、科学技術を多面的にとらえるための幅広い教養を1年次から3年次にかけて醸成します。 2-3年次. 1年次に身につけた基礎学力を土台に、化学工学、高分子化学、生化学なども含めた専門性の高い応用化学専門分野を体系的に履修することで、材料開発や環境保全技術の問題解決に必要な専門知識を身につけ、工学倫理を学ぶことで人間性に優れた化学技術者としての能力を身につけます。さらに、応用化学実験の履修により基礎・専門知識を問題解決に応用する能力、自らの考えをまとめる能力を身につけます。 4年次. 3年次までに修得した能力を体系化した卒業研究を行うことにより、研究や実験計画のデザイン能力、継続的な計画の遂行能力、問題解決能力を実践的に学び身につけます。研究室ゼミや卒業研究発表会などを通じて、自らの考えをまとめて発表・議論するなど、技術者として必要な総合的な能力を身につけます。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_12.pdf)</p>
<p>(概要) 1. 求める学生像 (1) 「化学」を駆使して化学およびその関連分野で活躍したいという意欲を持っている人 (2) 理科系の基礎学力を十分に修得し、科学的思考・物理的思考のできる人 2. 入学者選抜の基本方針 (1) 高等学校の教育課程を尊重し、基本的な学力と思考力を備えているかどうかを重視します。 (2) 理数系分野、特に化学における論理的な思考能力を重視した評価を実施します。 (3) 適性として、主体的な姿勢、学修意欲、発表力なども考慮して評価します。</p>

<p>学部等名 工学部情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_13.pdf)</p>
<p>(概要) 現代社会において、情報通信技術 (Information and Communication Technology, ICT) は、携帯電話やインターネットから、製造、流通、交通、金融などの社会基盤まで広く浸透し、ICTなしには現代社会はきちんと機能しません。 本学科では、ICT に関する知識を身につけ、社会の幅広い分野で活躍できる人材を養成するため、基礎を重視したカリキュラムを用意しています。また、高齢者やハンディキャップのある人々にも使いやすい ICT を目指し、人間の視点に立った ICT 教育・研究にも重点をおいています。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_13.pdf)</p>
<p>(概要) 所定の単位を修め、以下の能力 (学修・教育目標) を身につけた者に対して学位を授与します。 (A) 幅広い教養と人間性を持ち、国際的に通用する人材としての基礎的知識を身につけている。 (B) 急激な技術革新の根底にある情報関連技術の基本的かつ普遍的な知識や思考法を修得し、情報技術者として必要な基礎知識を身につけている。 (C) 情報技術の専門知識と広い視野を備え、倫理観、責任感を持って問題解決に応用する能力を身につけている。 (D) 情報技術に関し自ら計画を立案、遂行し、その結果をまとめて発表・議論できる能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_13.pdf)</p>
<p>(概要) 「基礎の重視」をカリキュラムの重要な柱と位置付け、8つの具体的な学修・教育目標を掲げて学修・教育プログラムを作成し、問題の発掘とその解決へ向かって行動を起こす創造的な人材の育成を目指しています。 (A) 基礎力の育成：情報工学の数理的基礎、システマ的基礎となる各専門分野の基礎的知識を身につける。 (B) 応用能力の育成：情報工学の応用に関連する知識を学び、演習、実験などを通してその理解を深め、基礎知識を実問題に応用する能力を育成する。 (C) 問題解決能力の育成：情報技術が社会や生活に及ぼす影響を考慮し、解決策を提案する能力を育成する。 (D) 実行力の育成：提案または考案した内容の実現のため、計画的に物事を遂行する能力を育成する。 (E) 総合的視野の育成：様々な観点から物事を捉える広い視野を育成する。 (F) 倫理観・責任感の育成：社会基盤を支える情報技術者としての倫理観、責任感を育成する。 (G) 情報および意思伝達能力の育成：自らの考えを的確にまとめ、それを日本語あるいは英語で、口頭や文書により表現伝達するための能力を育成する。 (H) 継続的・主体的に学修する能力の育成：知識の修得に継続的に取り組む能力を育成する。</p> <p><各年次での学修方針> 1～2年次：幅広い教養を身につけ総合的な判断力を養うとともに、数理的な基礎力、情報工学分野の基礎力や情報技術者として備えるべき倫理観を育成します。 2～3年次：情報工学分野の専門的な科目や情報技術の応用に関連した科目を通じて応用能力を養うとともに演習、実験などを通じて実践力、自らの考えをまとめ、表現する能力を養います。</p>

<p>4年次 : 卒業研究に取り組むことにより, 研究計画のデザイン能力や計画の遂行能力, 問題解決力を実践的に学び, 発表技術を含め, 技術者に必要な総合的能力を身につけます。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/2018_g_13.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>1. 求める学生像</p> <p>(1) 情報工学を学んでいくための基礎となる科目を修得している人</p> <p>(2) 好奇心が旺盛で, 情報工学やその関連分野における専門知識を身につけたいと考えている人</p> <p>(3) 主体性があり, 常に問題意識を持ち, 解決に向けて自ら考え, 行動を起こす意欲と能力を備えている人</p> <p>2. 入学者選抜の基本方針</p> <p>(1) 高等学校の教育課程を重視し, 基本的な学力と思考力を備えているかどうかを重視します。</p> <p>(2) 情報系, 理数系分野に対する熱意と能力も評価の対象とします。</p> <p>(3) 主体的な姿勢, 論理的思考力, 表現力, コミュニケーション能力なども考慮して評価します。</p>

<p>学部等名 農学部生物資源科学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=39)</p>
<p>(概要)</p> <p>動物・植物・昆虫・微生物を対象にして生物資源の持続的生産における過程や仕組み, 生命科学などについて理解を深めることができるアクティブラーニングを導入した教育プログラムを編成しており, それらの関連分野において地域はもとより国際的に活躍できる行動的知性を備えた人材を養成しています。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=39)</p>
<p>(概要)</p> <p>以下の学修・教育目標に掲げた能力を身につけ, かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与します。</p> <p>(a) 生物資源科学の学修を進める上で必要となる, 語学, 情報処理や健康に関する知識と思考力を高め, 幅広い教養と人間性を持ち国際的に通用する人材としての基礎的知識・技能を有する。</p> <p>(b) 動物・植物・昆虫・微生物の機能解明・開発, 食料等の人間生活に必要な生物資源の持続的生産を理解し, 説明することができる。</p> <p>(c) 生物資源の環境産業等への展開利用に役立つ理論を理解し, 説明することができる。</p> <p>(d) 生物学および化学を基礎として, 多様な生物資源の特質を分子から個体・個体群・生態系レベルで理解し, 説明することができる。</p> <p>(e) 生物資源の多様な問題に対する解決能力と判断力を身につけたスペシャリストでありながらジェネラリストとしての素養を有する。</p> <p>(f) 主体性を持って多様な人々と協働して生産現場における農業技術の現状を学び, 理解し, 問題点を抽出・解析し, 改善・解決法の提案ができる。</p> <p>(g) 実験室のみならず生物生産の現場(フィールド)において各種の調査方法を実践できる。</p>

<p>(h) 地球生物圏の生物資源および生物環境・生態について理解でき、それを国際的視野に立って展開活用できる能力と表現力を有する。</p> <p>(i) 顕微鏡操作などの生物学的研究法、生体や土壌の成分分析などの化学的研究法、動物・植物・昆虫・微生物の機能の解析と開発に有効な分子生物学的研究法に習熟し、それらを実践し応用できる。</p> <p>(j) 生物資源科学に関連する専門分野の基礎的な文献や論文の内容について説明することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=39)</p>
<p>(概要)</p> <p>【教育課程編成の方針】 動物・植物・昆虫・微生物を対象にして生物資源の持続的生産における過程や仕組み、生命科学などについて理解を深めることができるアクティブラーニングを導入したカリキュラムを編成します。</p> <p>【教育内容の学修方法】 1年次には、共通専門科目に位置づけられる農業と環境の科学、農学部コア実習、生物資源の科学を必修科目として配します。また、生物資源科学の基礎科目として植物生産学概論および動物生産学概論を、バイオサイエンスの基礎科目として生物学（概論）、生物学Ⅰ・Ⅱ、生物化学（生体成分の化学）、基礎化学Ⅰ・Ⅱを必修科目として配します。2年次には、専門教育科目として、生物資源・生産環境・生物機能・生物生産技術に関連する科目を配します。3年次後期から4年次にかけては、生物資源科学を総合的・多面的に理解して、地域や地球がかかえる諸問題を解決するための最新の技術と研究の情報に触れ（ゼミ、特別演習など）、一連の研究活動の実際を経験する（卒業論文）中で、生物資源科学に関する専門職業人となるための能力を身につけます。</p> <p>【学修成果の評価方法】 学修成果の評価は、授業科目ごとに定める達成目標に応じ、科目の態様に従って、試験、レポート、発表などにより評価します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=39)</p>
<p>(概要)</p> <p>1. 求める学生像</p> <p>(1) 生物資源科学科で学ぶための基礎的学力を有している人</p> <p>(2) 生物科学に基づいた生産技術、生物資源の利用に関する専門知識を身につけたいという熱意のある人</p> <p>(3) 主体性があり、常に問題意識を持ち、解決に向けて自ら考え、行動を起こす意欲と能力を備えている人</p> <p>(4) 専門高校・農業関連学科推薦では、将来、農業及び農業関連産業に従事し、この分野の指導的立場をめざす人</p> <p>2. 入学者選抜の基本方針</p> <p>(1) 高等学校の教育課程を尊重し、自然科学と社会科学を学ぶための基本的な学力や思考力を備えているかどうかを重視します。</p> <p>(2) 個別学力検査等では、広く自然科学を理解するために、生物、化学又は数学に対する熱意と能力を評価の対象とします。</p> <p>(3) 推薦入試Ⅰでは、主体的な姿勢、思考力、表現力、コミュニケーション能力なども考慮して評価します。</p>

学部等名 農学部応用生命化学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=41)</p>
<p>(概要) 生命の営みを支える物質を明らかにすることや、その代謝などによる構造や機能の変化を解明すること、すなわち、さまざまな事象を“物質の流れ”という観点から解明することを通じて、真に豊かな暮らしを支える科学技術の発展を図るための基本的・応用的な教育研究をおこないます。生命・食品・環境の分野の諸問題の解決に取り組むための知識・技能と行動的知性を備え持つ人材を育成します。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=41)</p>
<p>(概要) (a) 幅広い教養と人間性を持ち、国際的に通用する人材としての基礎的知識を修得している。 (b) 食品、微生物、その他の生物資源を構成する基本的な物質の構造や機能を理解している。 (c) 化学や生化学の基礎的な実験の原理を理解した上で、その手法と技術を修得している。 (d) 科学的論理性に基づく思考力を持ち、自らの判断の過程や結果を説明するためのプレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を持っている。 (e) 生命・食品・環境に関する基礎的な知識を組み合わせることで物質の流れを把握し、諸問題の解決に取り組むことができる。 達成目標に到達するため、基盤教育科目は、35 単位以上、専門教育科目は、必修 60 単位を含む 92 単位以上、合計 127 単位以上の修得を条件とします。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=41)</p>
<p>(概要) 【教育課程編成の方針】 本学科では、生命・食品・環境の分野の諸問題の解決に取り組むための知識・技能と行動的知性を備えるためのカリキュラムを編成します。 【教育内容の学修方法】 応用生命化学科の教育プログラムは、生化学、食品化学、微生物学、分子生物学、有機化学、および化学実験の科目から構成されており、以下の要素を修得します。 1. 「基礎」力の習得 農学を俯瞰する力を身につけるために、農学部コア実習、農業と環境の科学、生物資源の科学を必修科目として修得します。 2. 「化学」的素養の修得 さまざまな事象を“物質の流れ”として把握できる力、すなわち、化学をツールとして使いこなす力の養成を重視しています。基礎無機化学、基礎有機化学、およびその演習科目などにより基礎的な事項を能動的に学修し、食品化学、高分子材料化学、生物有機化学などにより発展的・応用的な化学を修得します。 3. 「応用」力の修得 科学技術の利用を実践的に学修するために、基礎化学実験、応用生命化学実験などの科目を修得します。 4. 「生命」に関する広い視座の涵養 生物学、生化学、化学、哲学・倫理などが有機的に連携して構築されている「生命」について広い視座で修得するために、基礎生命科学、分子生理学、分子生命科学、生物化学などの科目に加え、食と細胞の科学、化学と生命など、暮らし、哲学・倫理的な素養をも必要とする科目を開講しています。 なお、卒業に必要な単位を取得することにより、食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格が得られます。</p>

<p>【学修成果の評価方法】 学修成果の評価は、授業科目ごとに定める達成目標に応じ、科目の態様に従って、試験、レポート、作品、発表などにより評価します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=41)</p>
<p>(概要) 1. 求める学生像 (1) 応用生命化学科で学んでいくための基礎となる科目を修得している人 (2) 真に豊かな暮らしを支える科学技術を発展させたいという意欲のある人 (3) ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめ、簡潔に分かりやすく表現することができる人 2. 入学者選抜の基本方針 (1) 高等学校の教育課程を尊重し、基本的な学力を備えていることを重視します。 (2) 化学に関する論理的な思考力やその表現力も評価します。 (3) 科学に対する熱意、主体的な姿勢、コミュニケーション能力なども評価します。</p>

<p>学部等名 農学部農業環境工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=43)</p>
<p>(概要) 本プログラムは、農村環境の創出・管理・評価、持続可能な食料生産の確保、再生可能エネルギーやバイオマス資源の利用に関する学識を身につけ、社会の幅広い分野で活躍でき、行動的知性を兼ね備えた技術者を育成することを目指しています。入学生は2年生後期から、①水土環境工学コース、②食料生産システム工学コースのいずれかに分属し、それぞれの専門領域について学修します。この2コースではそれぞれ、①地域資源・地域環境の適切な利用と管理、田園空間の総合的デザインに携わる専門技術者、②圃場機械や栽培・流通施設、廃棄物・バイオマス管理など、食料生産環境システムの機構とその設計、制御に携わる専門技術者の育成が図られます。卒業後の就職先としては、国・県・市町村や農村環境整備・生産基盤整備に関係する各種団体、調査・設計コンサルタンツ、土木建設関連企業、農業機械・施設開発企業、農産物・食品の流通・加工に関連する機械・装置開発企業、資源リサイクル関連企業などが挙げられる。なお、本プログラムはJABEE（日本技術者教育認定機構）による技術者教育プログラムとしての認定を受けており（2003年度から）、卒業と同時に修習技術者となり、技術士補の国家資格を得ることができます。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=43)</p>
<p>(概要) 本プログラムでは次の(A)～(E)の学修・教育目標を掲げています。 (A) 幅広く深い教養を修得するとともに、食料の持続的生産・供給、地球環境の保全と修復、動植物の生命現象の解明、食料を通じた人間の健康の維持という農学の役割について理解し、認識を深める。 (B) 現代の人間社会および自然環境に対する技術の役割と影響を理解し、技術者としての社会に対する責任を自覚できる。 (C) 高度な食料生産、快適な農村生活、豊かな自然生態系が調和し、持続する田園空間環境の実現を目指し、これら田園空間環境の創出・制御に関わる基礎として、数学・物理学系の工学的手法・アプローチを修得する。</p>

(D) 現実社会の変化する諸相の中で生起する田園空間環境に関わる様々な問題をフィールドに求め、幅広い分野の科学技術情報を活用して解決策を見いだす能力を修得する。また、課題研究を重視した教育を通じて、論理的な思考力、記述力、口頭発表の表現力、議論する能力、英語を含むコミュニケーション能力、および時間的制約下で計画的、自主的に学修・作業を実践する能力を修得し、醸成する。

(E) 各コースの専門分野における技術者に求められる専門的知識・技術及びデータ解析力を修得する。

これらの目標の達成のために必要な関連科目群が明示されており、各コースの必修及び選択科目群の履修によって、目標が達成される仕組みになっている。さらに、総合的な目標達成度評価のため、4年生前期に学生自身による達成度自己評価（評価用紙への記入）、卒業時に卒業総合試験（口頭試問）を実施している。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=43>）

（概要）

【教育課程編成の方針】

農村環境の創出・管理・評価、持続可能な食料生産の確保、再生可能エネルギーやバイオマス資源の利用に関する学識を身につけ、社会の幅広い分野で活躍でき、行動的知性を兼ね備えた技術者となるためのカリキュラムを編成します。

【教育内容の学修方法】

①水土環境工学コース、②食料生産システム工学コースの2コースがあり、学生の履修すべき専門科目は学科共通必修科目、コース別必修科目、コース別選択科目に分類されます。学修・教育目標の(A)は主として基盤教育で培われるものとし、(B)～(D)の達成に必要な科目群を学科共通必修、(E)の達成に必要な科目群をコース別必修として配置しています。学修・教育目標と科目群の関係については、各科目のシラバスに記載されるとともに、コース・ガイダンスの際に、関連表の提示によって説明されています。コース分属が2年生後期開始時であるため、学科共通必修科目は1年生から2年生前期に開講されます。

【学修成果の評価方法】

学修成果の評価は、授業科目ごとに定める達成目標に応じ、科目の態様に従って、試験、レポート、発表などにより評価します。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=43>）

（概要）

1. 求める学生像

- (1) 理数系の基礎学力がある人
- (2) 環境と調和した農業システムや田園空間の創出に関心があり、かつ情熱のある人
- (3) 広く社会や環境に関わる問題意識をもち、課題解決に向けて自ら考え、行動をおこす意欲と能力を持つ人

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 高等学校までの教育課程をふまえて、基本的な学力と思考力を備えているのかを判断します。
- (2) 理数系の基礎学力と学ぶ意欲も評価します。
- (3) 論理的な思考力、主体的な姿勢、社会的な問題への関心なども考慮して評価します。

<p>学部等名 農学部農業経済学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=45)</p>
<p>(概要) 本プログラムは、農学部で唯一の文系学科として、国内外の食料・農業・農村について、社会科学の視点から教育・研究・地域貢献を行っています。食料・農業・農村にかかわる生産、加工、流通、消費、貿易を対象に、行政や農業関連団体、金融や食料関連産業の分析を含めて総合的に学修します。21世紀の世界が直面する諸問題の解決に寄与できるよう、広い視野から実社会に貢献できる行動的知性を備えた人材を養成する目的でカリキュラムを編成しており、「自らの意思で学び、自ら思考する」能力の開発を目指しています。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=45)</p>
<p>(概要) 以下の学修・教育目標に掲げた知識、技能を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与します。</p> <p>(知識・理解)</p> <p>(a) 経済・社会問題を理解するために必要な社会科学の基礎的な知識を理解している。</p> <p>(b) 食料・農業・農村問題を理解するために必要な農学基礎知識を理解するとともに、農業経営・経済学の視点から問題を説明することができる。</p> <p>(c) 食料・農業・農村を取り巻く社会経済問題を理解するために必要な農政学・地域社会学、農業史等の関連専門科目の知識を有し、社会科学の立場から問題の有機的な関連を説明することができる。</p> <p>(d) 食料・農業・農村の現場から問題を発見し、解決していくために必要な調査手法、情報処理のための基礎的知識を有し、課題発見と解決のための仮説設定ができる。</p> <p>(技能)</p> <p>(e) 地域社会および企業・経営の現場から問題を発見し、調査によってそれを明確化する課題発見能力</p> <p>(f) 国内外の経済社会および食料・農業・農村に関するデータ・情報を収集・分析し、その位置づけを行う論理的思考力・判断力と仮説検証能力</p> <p>(g) 課題を整理して発表し、コミュニケーションを図りながら解決策を提示できる企画立案能力と表現力、主体性を持って多様な人々と協同して学ぶ態度</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=45)</p>
<p>(概要) 【教育課程編成の方針】 本プログラムは、食料・農業・農村にかかわる生産、加工、流通、消費、貿易を対象に、行政や農業関連団体、金融や食料関連産業の分析を含めて総合的に学修することで、21世紀の世界が直面する諸問題の解決に寄与できるよう、広い視野から実社会に貢献できる行動的知性を備えるためのカリキュラムを編成します。</p> <p>【教育内容の学修方法】 講義系科目として①社会科学の基礎理論、②専門基礎科目、③専門関連科目、④他学科・他学部の関連基礎科目を段階的・総合的に編成しています。また、講義系科目に加えて、本学科では特に、トレーニング系科目として⑤計量分析や財務経営分析の知識、社会調査法としての実態調査手法の修得、⑥少人数ゼミナール形式の演習を重視するとともに、実習系学修として⑦農業や関連業界の実態を知るための実習や現地調査を配置しており、少人数ゼミナール教育の重視、フィールド体験型調査実習の重視、情報収集・分析トレーニングの重視により、現場</p>

重視の教育体系を取っている点にその特徴があります。こうして身につけた能力を4年次の卒業論文で集大成させており、「自らの意思で学び、自ら思考する」能力の開発を目指し、幅広く深い教養を持った、実社会に貢献できる人材を養成する目的でカリキュラムを編成しています。

【学修成果の評価方法】

学修成果の評価は、授業科目ごとに定める達成目標に応じ、科目の態様に従って、試験、レポート、発表などにより評価します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=45>)

(概要)

1. 求める学生像

- (1) 社会科学を学ぶ基礎となる科目を幅広く修得している人
- (2) 論理的思考力があり、食料・農業の社会経済問題や農村地域のくらしに関心がある人
- (3) 現実の社会の中から学ぶ意欲と、コミュニケーション能力がある人

2. 入学者選抜の基本方針

高等学校までの教育課程をふまえて、基本的な学力と思考力を備えているかを判断するとともに、論理的な思考力、社会への関心、学修意欲なども考慮して評価します。

学部等名 農学部森林科学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=47>)

(概要)

本プログラムの特色は、森林の育成・管理から生産物の加工利用までの一連の流れを基軸とし、森林の持つ木材生産機能と環境保全機能を総合的に学修する点にあります。本学科の授業科目は、自然科学系から社会科学系までの幅広い分野から構成されていますが、特に演習林を主体とした実践的野外実習による行動的知性の涵養が重視されており、森林に関わる専門分野の基礎から応用にいたる科目と、実習科目を有機的に組合わせたカリキュラムとなっています。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=47>)

(概要)

本プログラムでは、以下の(a)～(g)を学修・教育目標として定め、これらを到達目標としています。修了認定は所定の単位を修得するとともに、学科独自の評価スコアを用います。学修・教育目標ごとに評価スコアの最低基準が設けられており、この基準を全て満たした場合修了が認定されます。

- (a)森林科学の学修を進める上で必要となる、語学、情報処理、専門基礎の知識と思考力を高め、地球的、地域的両面の視野から物事を判断、理解する能力を身につける。
- (b)栃木県内に展開する林業生産現場や演習林を活用し、森林の育成・管理から、生産・加工利用にいたる一連の生産活動の流れと森林の持つ多面的な機能を理解する。さらに、森林における生産活動が社会及び自然環境に及ぼす影響を総合的に理解し、評価する能力を身につける。
- (c)森林生態系及びその構成要素である生物に関する遺伝子レベルから生態系レベルまでの生物学的知識を修得し、生物多様性の保全、森林の育成・修復などの管理技術を身につける。
- (d)森林資源の持続的利活用のために必要となる計測技術、管理計画、森林政策に関する知識を修得する。また、森林の社会的な役割、位置づけを理解し、森林に関する管理計画、政策を立案する能力を身につける。

<p>(e)森林の保全と森林生産のための基盤整備に関する数学・物理学・工学的知識を修得する。また、森林生産に関する技術、環境への影響を理解し、作業システムをデザインできる能力を身につける。</p> <p>(f)森林資源の利活用を行うための生物学、化学、物理学などの専門知識を修得し、木質資源などの利用のための新技術を開発・活用できる能力を身につける。</p> <p>(g)森林科学全般の知識を基礎とし、森林資源の生産・利用現場からの要求に応えうる研究実行力、技術開発力、成果のまとめと公表が行える能力を身につける。また、研究・技術開発の成果が、社会及び生活環境に及ぼす影響を多面的な視点から理解する能力を身につける。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=47)</p>
<p>(概要) 【教育課程編成の方針】 本プログラムの授業科目は、自然科学系から社会科学系までの幅広い分野で構成し、特に演習林を主体とした実践的野外実習による行動的知性涵養を重視した、森林に関わる専門分野の基礎から応用にいたる科目と、実習科目を有機的に組合わせたカリキュラムを編成しています。</p> <p>【教育内容の学修方法】 本プログラムでは、授業の科目群を 1) 基軸科目（導入、総合）、2) 専門基礎科目群および 3) 専門科目群（育林学、森林社会科学、森林工学、林産学の4教育分野）の3つに区分しています。基軸科目（導入）は以後の学修をして行く上で不可欠な科目群であり、専門基礎科目は、各教育分野の専門科目を理解するのに必要となる科目群です。また、専門科目は、森林科学の学生が必ず修得すべき学修領域が必修科目として設定されており、さらに各自が希望する専門選択科目を学修することによって森林、林業、林産業に対する専門知識を深めていく科目が設定されています。基軸科目（総合）は、森林科学の思想と技術を学修・修得した後、さらに総合的なテーマに協力して取り組むことなどを通じ、専門家としての資質を高めるために設定された科目群です。これらの科目群について1～4年次に順次学修します。</p> <p>【学修成果の評価方法】 学修成果の評価は、授業科目ごとに定める達成目標に応じ、科目の態様に従って、試験、レポート、発表などにより評価します。さらに学修・教育目標ごとに学科独自の評価スコアを用いて達成度を評価します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2025e13/#page=47)</p>
<p>(概要) 1. 求める学生像 自然科学と社会科学の基礎学力を有し、持続可能な森林の育成、林業・林産業について実践的に学修しようとする人。</p> <p>2. 入学者選抜の基本方針 高等学校の教育課程を尊重し、自然科学と社会科学の基本的な学力と思考力を備えているかどうか評価します。推薦入試においては、森林・林業分野への熱意、論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力なども考慮して評価します。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：宇都宮大学 DATE Book
<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2023p1/#page=7> (2023年度)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	5人	－					5人
データサイエンス経営学部	－	9人	6人	0人	1人	0人	16人
地域デザイン科学部	－	16人	15人	1人	5人	0人	37人
国際学部	－	13人	10人	0人	5人	0人	28人
共同教育学部	－	22人	21人	0人	14人	0人	57人
工学部	－	32人	31人	1人	20人	1人	85人
農学部	－	27人	21人	2人	7人	2人	59人
大学院	－	6人	3人	0人	2人	0人	11人
その他	－	9人	15人	0人	10人	0人	34人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		142人					142人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://researcher.utsunomiya-u.ac.jp					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
10. 教育上の目的に応じ、学生が修得すべき知識及び能力に関する情報 FDの実施状況を掲載 https://www.utsunomiya-u.ac.jp/disclosure/kouhyou.php							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
データサイエンス 経営学部	55人	59人	107.3%	55人	59人	107.3%	-人	-人
地域デザイン科 科学部	131人	144人	109.9%	563人	616人	109.4%	12人	12人
国際学部	84人	99人	117.9%	374人	465人	124.3%	20人	21人
共同教育学部	170人	172人	101.2%	680人	709人	104.3%	-人	-人
教育学部	-人	-人	-%	-人	8人	-%	-人	-人
工学部	290人	308人	106.2%	1,287人	1429人	111.0%	52人	44人
農学部	180人	204人	113.3%	801人	875人	109.2%	36人	23人
合計	910人	986人	108.4%	3,760人	4161人	110.7%	120人	100人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
地域デザイン 科学部	137人 (100%)	44人 (32%)	87人 (64%)	6人 (4%)
国際学部	88人 (100%)	2人 (2%)	79人 (90%)	7人 (8%)
共同教育学部	164人 (100%)	10人 (6%)	154人 (94%)	0人 (0%)
工学部	292人 (100%)	219人 (75%)	67人 (23%)	6人 (2%)
農学部	199人 (100%)	78人 (39%)	113人 (57%)	8人 (4%)
合計	880人 (100%)	353人 (40%)	500人 (57%)	27人 (3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) ・データサイエンス経営学部は令和6年度設置のため卒業生無。 ・共同教育学部には旧教育学部卒業生を含む。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>授業計画(シラバス)の作成にあたり、作成上の注意として①教員名②ナンバリング③科目等履修生の受入④連絡先⑤オフィスアワー⑥AL(アクティブ・ラーニング)度⑦実務家による授業回数⑧実務経験の内容及び当該授業への実務経験の活かし方⑨地域対応力を要請する科目⑩授業の内容⑪授業の到達目標⑫学修・教育目標との関連⑬前提とする知識⑭関連する科目等⑮授業の具体的な進め方⑯授業計画詳細情報(授業計画・時間外学修・標準学修時間)⑰教科書・参考書・教材等⑱成績評価⑲学修上の助言⑳キーワード㉑SDGsとの関連㉒3C到達度チェック㉓備考の入力方法等を示し、その上で作成した授業計画(シラバス)を本学公式ホームページで公表しています。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 授業計画(シラバス)に記載の成績評価の欄において、授業科目毎に授業への参加態度、定期試験、レポートの成績評価への割合を明らかにするとともに、本学公式HPへ掲載の成績評価制度(GPT・GPA制度)による秀・優・良・可等の評語やGPの説明等に基づき、厳格かつ適正な評価及び単位認定を行っている。また、学科毎に卒業認定の基準(ディプロマポリシー)を定め、本学で提供される教育プログラムについて、どのような学生を、どのような教育体系によって、どのような能力を備えた人材に養成するかを約束した「学生の皆さんへの約束」として公表しています。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
データサイエンス 経営学部	データサイエンス経営 学科	124 単位	有・無	24 単位
地域デザイン科学部	コミュニティデザイン学科	126 単位	有・無	24 単位
	建築都市デザイン学科	126 単位	有・無	24 単位
	社会基盤デザイン学科	126 単位	有・無	24 単位
国際学部	国際学科	125 単位	有・無	24 単位
共同教育学部	学校教育 教員養成課程	155 単位	有・無	24 単位
教育学部	学校教育 教員養成課程	128 単位	有・無	24 単位
工学部	基盤工学科	125 単位	有・無	24 単位
	機械システム工学科	125 単位	有・無	24 単位
	電気電子工学科	125 単位	有・無	24 単位
	応用化学科	125 単位	有・無	24 単位
	情報工学科	125 単位	有・無	24 単位
農学部	生物資源科学科	127 単位	有・無	24 単位
	応用生命化学科	127 単位	有・無	24 単位
	農業環境工学科	127 単位	有・無	24 単位
	農業経済学科	127 単位	有・無	24 単位
	森林科学科	127 単位	有・無	24 単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: ホームページで公表
 教育情報の公表(学校教育法施行規則第172条の2関係)
 7. 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
 キャンパスマップ(峰・陽東)
<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/convenient/campus-map.php>
 課外活動状況
<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/convenient/campuslife/club.php>
 大学施設
<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/convenient/facility.php>
 キャンパスまでの交通手段
<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/outline/map/access.php>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
全学部	全学科	535,800 円	282,000 円	21,520 円	TOEIC IP テスト受験料 e-ラーニング受講料 学生教育研究災害傷害保険等

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学において学部学生は原則、国の修学支援新制度（給付奨学金と学費免除一体型）によって学費の減免を行っている。給付奨学金の予約採用候補者及び春の在学採用申請者については、日本学生支援機構の審査結果が出るまでの間、入学金及び授業料の納付を猶予する取組みを実施している。 ・入学前1年以内において、学資負担者が死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより入学料の納付が著しく困難であると認められる学生については大学で入学料の減免審査を行い、その審査結果が出るまでの間は、上記と同じく入学金の納付を猶予している。 ・授業料については、申請に係る期の開始前6月以内（新入学者に対する入学した日の属する期分の免除に係る場合は入学前1年以内）において、学資負担者が死亡又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合は、大学で授業料の減免審査を行い、その審査結果が出るまでの間は、上記と同じく授業料の納付を猶予している。 ・以上の学費減免制度に加え、寄付金を原資とした本学独自の奨学金制度を複数設けており、民間奨学金と併せて学生に広く周知し、学生が学業に専心できるよう経済面からの支援を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年一貫したキャリア教育の授業を開講しています。 ・全学年を対象としたキャリア教育プログラムとして、キャリアフェスティバルという企業担当者による業界説明や働き方の変化、企業戦略等の講話等をいただくイベントを開催しています。 ・低学年から参加できる自己啓発系のキャリア支援セミナーを実施しています。 ・キャリアカフェという出入り自由な空間に進路選択に係る自己啓発関連図書、就職活動に向けた各種参考図書を配架し閲覧可能とし、学生への図書の貸出も行っています。 ・就職活動に向けて必要な情報を提供する就職支援プログラム（業界・企業研究、エントリーシート作成、面接対策、合同企業説明会等）を実施しています。 ・学生の疑問・不安に応えるために、窓口を設置し、いつでも職員による学生相談ができる体制を整えており、各学生の相談内容に配慮した対応を行っています。 ・キャリアコンサルタント資格を有するアドバイザーと毎日相談が行える体制を整備し、進路選択などのキャリア相談や就職支援を行っています。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>【心身の健康に係る支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスに関する相談を中心に複雑化・多様化の傾向にある学生の相談に対応するために学生相談体制を見直し、保健管理センター、カウンセラー、学務部職員を室員とする学生相談室を再構築し、なんでも学生相談窓口での相談を皮切りに学務に関わる教職員が情報を共有し合い、支援していく取組みを進めている。 ・学生生活講習会を開催し、消費者啓発活動やテーピング講習など学生の安全に係る啓発活動を行っている。

・保健管理センターでは、定期健康診断の他に、体育系健康診断、特別健康診断、留学生特別健康診断を実施している。また、ケガや病気等の身体的な悩み相談に対して診察や治療・指導を行う健康相談や、学業や対人関係等の心理的な悩みに対して心理相談・精神科相談を行っている。さらに、健康のしおりやマニュアルブックの作成、健康に関する講演会の開催、健康情報室では自動血圧計や身長、体重、体脂肪計、自動計測機器、健康に関する本や雑誌、ビデオ等を置き、自由に利用出来るようにし、健康管理に関する啓発活動を行っている。その他に内科医師、看護師による禁煙支援、AEDを学内数か所に設置、使用法や心配蘇生法等の救急救命法の講習会を実施している。

【多様な学生支援】

・令和5年度から専門的な知識を有する専任教員及び事務補佐員を採用して障がい学生支援室を再構築し、障害者差別解消法を踏まえた「不当な差別的取扱い」防止・「合理的配慮」の提供を行える実施体制の整備、障がい学生の教育環境の整備・調整を進めている。また、令和6年度には男女共同参画推進室と障がい学生支援室を発展的に統合させ、これまで以上にダイバーシティ（多様性）、エクイティ（公平性）、インクルージョン（包摂性）を踏まえた環境を醸成し、多角的に推進するための組織として「DE&I推進センター」を設置し、多様な学生支援の体制整備を進めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

教育情報の公表（学校教育法施行規則第172条の2関係）

<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/disclosure/kouhyou.php>

募集要項、大学案内等の公表・入手方法

<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/convenient/request.php>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

【宇都宮大学 回答】

令和4年12月4日に「高等教育の修学支援新制度の在り方検討会議」において取りまとめられた提言の中で、
「入試科目の見直し、入学後の文理横断型の教育、複線的・多面的な学び、STEAM教育の強化、全学的なデータサイエンス教育等の総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取組について、機関要件の確認申請書の様式に記載事項欄を新たに追加し、こうした取組を実施している場合には、別途、任意様式でその内容について記載願います。

参考：教育未来創造会議第一次提言 本文 16～17 頁参照

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/teigen.html>

以上について、下記3点に分けてご回答致します。

①入試科目の見直し

【学部等の枠を超えた大学入学者選抜の実施などによる入学後の専攻分野の決定（レイトスペシャライゼーション）など学部単位の大学入学選抜のあり方の見直し】

- ・データサイエンス経営学部では、入学時から2年次前期までは、全員が共通でデータサイエンスと経営学の専門基礎を学ぶ。2年次前期終了時までの期間に卒業後のキャリアまで視野に入れた将来の志向を定め、2年次後期時点で「データサイエンス学系」「経営学系」のいずれかの学系を選択し、2年次後期から卒業までの期間に、選択した学系分野の専門性を深化させる。
- ・工学部について、一般選抜前期日程、総合型選抜A（一般）及び学校推薦型選抜では、「化学系」「機械・情報電子系」の2つの系に分けて入学者選抜を行う。「化学系」に合格し入学した者は2年次より応用化学コースに配属され、「機械・情報電子系」に合格し入学した者は、本人の希望と1年次の成績により機械システム工学コース又は情報電子オプティクスコースに配属される。また、本人の希望と1年次の成績により、各系の若干名が2年次から配属されるコースを変更することができる。
- ・一般選抜後期日程及び私費外国人留学生選抜では、系ごとの入学者選抜は行わず、基盤工学科全体で入学者選抜を行う。

②入学後の文理横断型の教育、複線的・多面的な学び、STEAM教育の強化等

1. 宇都宮大学の基盤教育改革について

国立大学法人宇都宮大学第4期中期計画において、2教育に関する目標を達成するための措置の1つとして、「(4) 高度な専門知識と幅広い教養及び行動的知性を身に付けた人材を育成するために、全学生が身に付けるべき能力（論理的思考力、情報活用能力、表現力、学修力、協働力、課題解決力）として設定した「宇大スタンダード」を基に、各教育プログラムのカリキュラムの精選・見直しを行うとともに、高度教養科目の新設を含め複眼的視野を獲得させるための教養科目拡充など基盤教育の再編を行う。」ことを掲げている。

これを受け、基盤教育における改革として、主に次のような改善を行い、令和5年度入学者から適用している。

【基盤教育改革における主な改善策】

○宇大スタンダードの6つの力の修得状況を可視化する仕組みの構築

宇大スタンダードの修得状況をルーブリック評価にて可視化する科目として、1年次に履修する基盤教養科目と、3（4）年次に履修する高度教養科目を設置する。

○文理横断・文理融合型科目の充実、課題発見・解決力を修得させる科目の充実

異なる専門分野の教員が連携し、基盤教養科目及び高度教養科目において、課題発見・解決型の内容を実施する。また、リベラルアーツ科目において、様々な学問分野の問いに触れさせ、学びの幅を広げる。

2. 副次的教育プログラム“Learning+1（ラーニングプラスワン）”について

宇都宮大学では、学生に複眼的な知識や視点を身に付けさせることが重要であると考え、所属するそれぞれの学部において学ぶ専門教育だけでなく、更に多様な他の領域の知識や能力を身に付けることができる“Learning+1”を開講しており、学生が自主的かつ意欲的に学ぶ領域を拡げ深めることによって、「人間力」を高め将来の可能性を広げることをサポートしている。

“Learning+1”のプログラムとしては、①英語運用力や異文化社会およびグローバル化する社会への知識を深め、国際的なフィールドでの実践力を身に付ける「グローバル人材育成プログラム」、②文理の枠組みにとらわれることなく、数理・データサイエンスを日常生活や仕事場で使いこなすことができる基礎的素養を身に付ける「文理融合型数理・データサイエンス教育プログラム」、③マネジメントに関する知識を深め、社会で活躍できるスキルを身に付ける「マネジメントプログラム」を開講している。なお、必要な修了要件を満たした時に、学校教育法施行規則第 163 条の 2 に基づいた学修証明書を交付している。

③全学的なデータサイエンス教育等の総合知を育成するための学生の学びの充実

Society5.0 が実現された未来社会において、文理の枠組みにとらわれることなく地域創生に中心的に携わることのできる教養と専門性を持った人材の育成を進め、数理・データサイエンス・AI 教育も「文理融合の教養」と「専門性」を兼ね備えた体系的教育を目指し、基礎コースと応用コースに分けて、目的に沿った能力の育成を行っている。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F109110101556
学校名 (〇〇大学 等)	宇都宮大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人宇都宮大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		344人	336人	356人
内訳	第Ⅰ区分	181人	196人	
	第Ⅱ区分	101人	92人	
	第Ⅲ区分	62人	48人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				—
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	—	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当	—	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	—	前半期	後半期
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	21人
(備考)	
年間計には、適格認定における学業成績判定の結果、2回連続で「警告」となった場合のうち、2回目の「警告」がGPA等が学部等における下位4分の1の範囲に属したことにより「停止」となった者を含む。	

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	40人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	40人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。